

平成27年度 第1回 横浜みなとみらいホール指定管理者選定評価委員会 会議録

- 1 日 時 平成27年8月27日（木） 15時00分～16時30分
- 2 場 所 横浜みなとみらいホール レセプションルーム
- 3 出席者 石田 一志 委員、田中 操 委員、中村 晃也 委員、丸山 宏 委員、宮本 とも子 委員
- 4 欠席者 なし
- 5 傍聴者 なし

6 議事内容

議題	<p>議題1 開会</p> <p>議題2 指定管理者平成26年度評価について</p>
委員意見等	<p>議題1 開会</p> <p>(1) 定足数の確認 委員数5名のうち5名の出席により定数を充足し、会議の成立を確認した。</p> <p>(2) 本委員会の公開・非公開について 〈審議結果〉 横浜市の保有する情報の公開に関する条例 第31条及び横浜みなとみらいホール指定管理者選定評価委員会運営要綱 第9条に基づき、公開とした。</p> <p>議題2 指定管理者平成26年度評価について 指定管理者による事業報告及び自己評価の説明、横浜市より行政評価の説明を行った後、質疑を行った。 (以下「・」＝委員、「→」＝指定管理者) 〈質疑〉</p> <p>「1 経営」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・助成金は毎年獲得できるものではないため、企業協賛金を目標金額に近づけることが重要である。 ・助成金・協賛金は分けて記載したほうがよい。 →(市)指摘を踏まえ、施設と調整する。 ・26年度の報告書がわかりやすくまとまっており、今後、活用してほしい。 ・企業協賛金は、ジュニアビッグバンドの育成と結びついているのか。趣旨が明確な事業は賛同しやすいと考えられる。 →企業にご協賛いただき、子ども達にも企業の社会貢献活動を学んでもらうことから、相互にプラスとなる関係性になっている。 ・企業のクローズドコンサート(社員のための厚生コンサート等)をセールスする予定・実態はあるか。 →今年度初めて、企業が考える公演をホールが製作し、協賛金と関連付けた取組に着手している。まだ公演は終了していないので、実績を踏まえ、今後の展開を考えたい。 ・通常の公演をクローズドにして売るといふ、企業用コンサートプログラムの取組もよいのではないか。

「2 事業」について

- ・ジュニアビッグバンドは企業協賛がメインの理念か、それとも青少年育成のどちらに重きがあるのか。
→青少年育成に軸を置いている。一方で、入場無料の公演やレッスン費用や楽器購入等で相応の費用が必要なため、企業協賛により収支バランスをとり継続している。
- ・ジュニアビッグバンドに参加している学年構成はどのようなものか。今後長期的に実施する展望があるのか
→中高生を対象とし、現在は中学生1名、高校生が23名程度。学年は分散している。今年で3年目の事業であり、長期的な展望を考えている。
- ・良い演奏者を集めることが重要であり、参加対象者はなるべく広範囲がよい。東アジアの核になる意識を持って運営すると、すばらしいものになるのではないか。ビッグバンドは事例が少ないので、目玉になるかもしれない。
- ・国際オペラで、横浜がベトナムの歌手をリードする姿が良かった。東アジアの核となる覚悟でオペラを核にしていくのか。
→26年度のオペラは大きな取組だった。広報面等、波及効果がある一方で、収支面の検証も踏まえ、今後継続するという結論にはまだ至っていない。財団で運営する他ジャンルの施設と連携し東アジアの可能性を探っていきたい。
- ・オペラにかかわらず、一つのキーワードでまとまるような事業を長期展望で作っていただきたい。
- ・27年度、オルガンで様々な公演を行っているが、近隣でオルガンを設置しているホールも含めた国際オルガンフェスティバルの展開も良いのではないか。
- ・ビッグバンドに特化するのか、今後、違う趣向の人材育成も行うのか。オルガンを組み合わせると、聴衆の開拓もできるのではないか。
- ・国際ピアノコンクールは、歴史も長く、昨年度の出演者も素晴らしい演奏だった。メディアに働きかけて取り上げてもらう必要がある。
- ・地域貢献のアウトリーチは、ホールに依頼が多く来るのか、ホールから積極的に実施しているのか。大学でも同様の取組があるので連携ができるとよい。
→先方からの依頼、ホールからの提案と双方のケースがある。
- ・ホールに演奏家が常駐していないため、アウトリーチは難しいのではないか。コンサート企画立案プログラムの参加者による演奏会、子ども達による学校音楽会を充実させるなどやり方があるのではないか。
- ・音楽大学のリレーションシッププログラムは、公募しているのか。
→公募ではなく、音楽の専門校と直接相談するケースが多い。
- ・公共ホールによるアウトリーチは、現場では業務量も多いと思われる。みなとみらいホールでは、あえてアウトリーチ事業の整理をし、レベルを上げた事業展開をしたほうがよい。ホールに来ていただくアウトリーチの手法もある。
→現在、事業を類型化し、対象を整理するなど、次年度に向けて内部検討を進めている。
- ・フランスでは視覚障害のオルガニストが多く、盲学校のプロフェッショナルなプログラムとしてオルガニストを育成していた歴史がある。オルガンのアウトリーチは、オルガンに触れるだけでなく、そういう可能性も視野にいれて続けていただきたい。

	<p>「3 施設の運営」から「7 留意事項」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友の会の新規入会者が目標に達しなかったが、会員数は推移があるのか。 →退会される方もおり、約2,500名で一定となっている状況。 ・新規加入、継続加入の特典はあるのか。長期加入していることに意味を持たせることで、会員数が増えるのではないか。 →現在も様々な特典はつけているが、現在、見直しをしている。 ・会員の年齢層が高齢であるのであれば、若い会員をどのように取り組むか戦略はあるのか。 →無料でホールの情報を定期的に受け取ることができるメールマガジン会員がおり、年齢層は友の会よりも若くなっている。 ・レセプションルームの利用率が低くなっているが、どういう用途で利用されているのか。 →大小ホールご利用の方の打ち上げとしての利用や気軽なコンサートで利用される方もいる。26年度からパシフィコ横浜と連携して分科会等の開催を御案内している。定期的な情報交換を進めている。 ・ケータリングも可能か。 →特定の業者があるわけではないので、自由度がある。 ・レセプションルームの使い方について、写真を含めたパンフレット等で営業することもよいのではないか。 →少しずつ実施している状況。
<p>審議結果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今回のヒアリング及び26年度内の事業視察を元に、次回委員会では、外部評価について審議する。